

社会福祉法人 二葉保育園
児童養護施設 二葉学園

二葉だより

発信元

東京都調布市上石原2-17-7

児童養護施設 二葉学園

TEL 042-482-2578

FAX 042-480-5200



子どもの権利を守る

十一月は子どもの虐待防止月間、里親月間（十月、十一月）でした。十一月二七日には特定非営利活動法人 児童虐待防止全国ネットワーク主催第二十回「子どもの虐待死を悼み命を讃える市民集会」が開催（オンライン）されました。

そこでは日本において、令和三年一月〜十二月一年間で三五ケース、四四人の子どもの虐待死の状況が報告されました。あくまでも私の印象ですが、いわゆる無理心中で命を落とすケースが多いなと思いました。コロナの影響がその背景にあるのではないかと思いました。

SDGsの十七の目標の中に、以下の目標と組み合わせがあります。私たちはこの目標の観点からも児童虐待の予防や早期発見に取り組んでいかなければなりません。

十六・一 あらゆる場所において、全ての形態の暴力及び暴

力に関連する死亡率を大幅に減少させる。

十六・二 子どもに対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撲滅する。

その日の市民集会の様子は、YOUTUBEで視聴することができますので是非、視聴してください。

(<https://youtu.be/qfUUYToLngw>)

二葉だよりの前号で、児童福祉法改正のことについて触れさせていたいただきました。法改正はすべて大切なことばかりですが、ここでは、社会的養護に関してとりわけ強調したいことの二つをお伝えしたいと思います。

一つ目は、児童の意見聴取等の仕組み（アドボカシー）の整備についてです。「児童相談所等は入所措置や一時保護等の際に児童の最善の利益を考慮しつつ、児童の意見・意向を勘案して措置を行うため、児童の意見聴取等の措置を講ずることとする」としており、「都道府県

は子どもの意見・意向表明や権利擁護に向けた必要な環境整備を行う」としています。

私は人権意識・人権感覚について、日本は高いとは言えない国だと思っています。とりわけ子どもの人権擁護についての取り組みは遅れていると思っています。このアドボカシーの取り組みは、子どもの権利擁護の中心的取組であり、これまで日本の課題（未着手）でもありました。参政権が認められていない子どもたちにとって、アドボカシーの取組みは社会の仕組みとして必須です。子どもたちにとって望ましい取り組みになることを期待しつつその動きに注視していかなければなりません。

二つ目は、社会的養育経験者等に対する自立支援の強化についてです。①児童自立生活援助の年齢による一律の利用制限を弾力化する（一部では年齢制限の撤廃と報じられている部分です）。社会的養護・養育経験者等を通所や訪問等により支援する拠点を設置する事業を創設する。

年齢要件については都道府県知事が認めた時点まで児童生活援助の実施を可能とするとともに、教育機関に在学していなければならぬ等の要件を緩和す

るとし、満二十歳以降も児童自立生活援助事業を活用して同じ施設等に生活し続けることが可能になったということです。

学園ではまだ、このことの実施についての事業所内での議論と実施の方法について確認できていない現状があります。子どもたちにとってよりよい自立支援（退所者支援等）の取り組みになるようにしていきたいと思っています。

施設長 小倉要



夏の取り組み

夏行事実行委員会

子どもも職員も例年とても楽しみにしている夏行事ですが、新型コロナウイルスの流行でこの二年間は行うことが出来ず・・・今年度、ようやく念願叶って夏行事を行うことが出来ました！

コロナ対策で例年よりも多い八つのプログラムを子どもの希望と職員のアイデアを合体させる形で企画しました。どのプログラムも職員・子どもの思いやアイデアが詰まっていて、とても素敵なものとなりました。ぜひ各プログラムの紹介文を読んで頂けたらと思います。

全体としては一カ月ほどの行事期間となりましたが、幸いな事にどのプログラムも天候に恵まれて、企画したプログラムの最大値を子ども達に経験させてあげることが出来たように思います。来年度以降夏行事を行えるか分からないので今年度の経験が子ども達にとつて貴重なものとなることを願っています。

保育士 篠田 未来

いっしょまプロ

三年ぶりの夏行事。いこうよ！ふたばの島プログラムは先陣を切って新島へ行ってきました。本園を夜に出発し電車に乗って港へ。そこから夜行船に乗りいよいよ島へ向けて出発です。初めて乗る船はとても楽しく、興味深い物であり、日付が変わっても寝付けない子ども達。それでもなんと朝の五時には起きて船を満喫していました。島では釣りをしたり、飴が入った水風船をもぎもぎしたり、BQをしたり花火をしたり、皆で海に入ったり、海岸で穴を掘って宝探しをしたり。どうぶつ森をテーマにしたふたばの島を味わい尽くしました。

そして、そして、帰りはなんと飛行機。皆怖がらなかなと思っていたのですが、怖がる子はいなく必死で窓の外を眺めていました。飛行機が落ち着くと疲れて寝てしまう子もちらほら。夜にお出かけ、船に乗る、島へ行く、釣りをする、きれいな海に入る、飛行機に乗る。初めてなことばかりで

とても貴重な体験をいっぱいする事が出来、帰ってきからまた行きたい。海に入りたい。船に乗りたい。飛行機に乗りたいと報告をしてくれる子どもたちは、出発前より一回りも二回りもお兄さんお姉さんになりました。こんがり日焼けをしています。

児童指導員 渡邊 洋暉

ぼくは夏のいっしょまでにいじまへいきました。にいじまにいくまえはふねのまじからちがう島の大島、利島を見ました。島につくとつりをしました。つれたのは一ぴきだけです、その日はやどにとまりました。つぎの日はかいすいよくにいきました。みんなといっしょにあそんでみんなをたすけました。帰りはふねじゃなくてひこうきでかえりました。楽しかったです。ひこうきからはいっしょまとうが見えました。ぼくはいっしょまをえらんでよかったです。

小学二年生男児



しまなみプロ

今年の自転車プログラムは飛行機で愛媛まで行き、しまなみ海道を渡って広島まで、七日間にも及ぶチャレンジングな企画を実施しました。参加した五名の児童は、事前取り組みでの本園から羽田空港までの往復と合わせると、全行程三百キロ以上もの距離を走破しました。

二日目には、今治市の大島から来島海峡大橋を一望できる亀老山に登りましたが、過酷な山道を自転車で登ることはハードルの高い目標設定だった為、小学生は途中でのリタイアも想定していましたが、暑さにはやられながらも全員で登り切れたことが大きな自信となり、その後の行程を走破することにも繋がりました。

無事五日目の夕方にはゴール地点の呉港に到着し、広島市内までフェリーで移動。展望デッキからは夕焼けに染まる鮮やかなうろこ雲が、走りきった皆を祝福してくれました。

翌日の夜はホテルから市内の飲食店まで車で移動して食事する予定でしたが、なぜか結局、全員で自転車に乗って

向かうことに。その帰り道、「これが本当にラストランだね」と感慨深くなりながら走り出そうとすると、打ち上げ花火が突然上がり一同大興奮。予告のなかった短い花火でしたが、そんな偶然にも祝福されました。

児童指導員 曾根裕人

ぼくは今年の夏、しまなみ海道を自転車で走りました。とても暑くて、しんどくて、死にそうでした。景色を見る余裕もありませんでした。最後の日には足が動かなくて、ちぎれるような激痛でした。グループで走ることも辛かったです。アンケートで自転車プログラムに○を付けたことをとても後悔しています。とても嫌だった。しかし、三百キロ走ったことは大きな自信になりました。

小学六年生男児



川で遊ぼう。プロ

小学四年生から十八歳まで幅広い年齢の児童五名と一緒に二泊三日で西丹沢大滝キャンプ場へ行ってきました！豊かな自然に囲まれ、澄み切った川の水を見て、皆大興奮！飛び込んでみたり、浮き輪に乗ってウォータースライダーのように流されてみたりと川を満喫していました。中にはオタマジャクシの捕獲に夢中になっていたり子もいたり自由奔放にただひたすらに川で遊んで過ごした三日間でした。

特に二日目では大滝まで川に沿って歩いて登り、途中困難な道にくじけそうになりそうな場面もありましたがみんな協力し無事全員目的地にたどり着くことが出来ました。着いた途端に道中からは想像できないぐらいに元気がいいに遊んでおり、子どもの体力の果てしなさを感ずるとともに、そんな子どものパワーに触発され、私も子どもたちと一緒に楽しみ尽くすことが出来ました。

また、特大のお肉をBBQで焼いたり、ピザ窯を使って自力でピザを焼いたり食事の場面でもいい体験をする事

が出来ました。私自身初めての夏行事で始まる前は不安でいっぱいでしたが、一生忘れる事のないかけがえのない思い出となりました。

児童指導員 佐藤溪

二日目は朝十時から大滝を目指してキャンプ場を出発したが道のりは険しかった。滝行したあとは泳ぎ対決や三m程の高さから飛び込んだりして遊んだ。拳サイズのカエルも捕まえた。皆で花火も楽しんだ。

三日目は朝から川で遊ぶ予定だったがどの川も駐車場が埋まっていて、最終日は川に入れずに帰った。帰り道を間違えて反対方向に進んでしまったり・・・しかし、トラブルも楽しむのが夏プロ。とても楽しかった。

高校四年生男児



島で泳ごう男児プロ

島で泳ごう(男子)プログラ
ムは、中高生男児七名と一緒に
式根島まで行ってきまし
た!

式根島は東京からジェット
船で三時間の場所にある、外
周十二キロの小さな島です。
プログラムの名の通り、海で
ひたすら泳いだ四日間でした。
海はとても綺麗で、自分たち
のすぐ近くに魚が泳いでいて、
本土だと感じる事のできない
自然の美しさを感じることが
出来ました。式根島にはいく
つかの海水浴場があり、毎日
違う海水浴場で泳ぐ楽しさも
ありました。

ほとんどの子が初めての夏
行事・海水浴だったので、初
めはどう遊べばいいか戸惑い
が見られました。最終日には
海にも慣れ、魚を追いかけ
てみたり、浮き輪でブカブカ
浮いてみたり、それぞれの海
水浴の楽しみ方を獲得してい
ました。

お天気にも恵まれ、充実し
た四日間を送ることができま
した。久しぶりの夏行事を開
催することができ、子どもた
ちにとつて貴重な経験になっ
たと思います。

児童指導員 三加真衣佳

私は今回が最初で最後の夏
行事でした。

海には魚やカニ・ナマコが
いました。浅瀬でナマコをみ
んなで探して捕まえたり、泳
いでいる魚を追いかけたりし
たのが一番楽しかったです。
ちょうど就職活動が始まる
前に夏行事があり、就活前最
後の良いリフレッシュになり
ました。

高校四年生男児



島で泳ごう女児プロ

私たちは三泊四日で式根島
に行き、たくさん海で泳いで
きました。

二葉学園にとつてはリベン
ジとなる式根島。天候にも島
の人にも恵まれて、きれいな
海がある素敵な島でした。

島内の移動は全て徒歩で、
八月の真夏日の日差しの下、
みんな海まで毎日片道三十
分以上歩きました。誰一人文
句を言わずに、それぞれ自分
の荷物を自分で持ち、さすが
中高生でした。海水浴をした
あと暑い中を歩いて食べるソ
フトクリームは、最高に夏を
感じることで格別でした。
夕食は毎日、子どもたちが
主導となってメニューを考え、
協力して調理を行ってくれま
した。三日目の夜に行つた
バーベキューでも、火起こし
から始まり、肉を焼いたり、
島の人に頂いた大きなオクラ
を茹でてくれていたり、疲れ
が見える中でもたくさん手
伝ってくれたおかげで楽しく
て美味しいバーベキューにな
りました。

式根島で過ごす四日間は
あつという間で、充実した毎
日でした。泳ぎ足りない子も
いたようですが、子どもたち

にとつても今年の夏行事が素
敵な思い出となってくれれば
嬉しいです。

児童指導員 櫻井和果

今年の夏行事で私は式根島
に行きました。式根島では海
で泳いだりみんなでご飯を
作ったり、沢山の楽しい思い
出をつくることができました。
その中でも私が一番思い出
に残っているのは海から帰っ
てくるときにみんなとソフト
クリームを食べたことです。
四日間毎日どの味を食べるか
わくわくしていました。

今年の夏行事はすごく楽し
くて沢山のよい思い出をつく
ることが出来ました。

来年の夏行事でも一緒に行
く人たちと沢山の良い思い出
を作れるような行事に行けた
らいいと思います。

中学一年生女児



島で釣りをしよう。プロ

「島で釣りをしよう！」プロプログラムでは、三泊四日で伊豆大島に行きました。小学校高学年から高校生までの参加となりましたが、全体的に穏やかな雰囲気です、すぐにみんな打ち解けていました。

行きは、ジェット船で一時間、帰りは四時半かけて大型船で帰って来ました。船に乗る事自体が、初めてな経験の子どもも多く、大人は酔いでぐったりの中、子どもたちは酔いも忘れて大はしゃぎでした。

島に着くとすぐに、「早く釣りをしたい！」とやる気満々の子どもたち。初日からシマアジやムロアジ、カサゴなど、多くの魚が釣れ、幸先の良いスタート。そんな中、なかなか釣れない子どももあり、最終日まで粘りに粘って釣れた一匹では、行事中一番の笑顔を見せてくれました。

初日は、仕掛け作りや餌を付けることだけでも一苦労だった子どもたちが、最終日には、海に着くと自分たちでどんどん仕掛けを作り、釣り始めている姿に成長を感じました。帰り道では、「冬の釣りも

やってみよう！」「他の季節はどんな魚が釣れるんだろう。」「また行きたい！」という子どもたちの言葉がたくさん聞けて、子どもにとっても、大人にとっても思い出に残る良い経験となりました。

保育士 竹内青葉

伊豆大島に釣りに行った。ホームと違う人たちと行くのは不安だったが、初対面の人と話すのは楽しいから少しわくわくしていた。海釣りは生まれて初めてだった。海に落ちないかとか、大波に飲み込まれないかとか、たくさん心配があったけれど、心配は必要なかった。島は二回目で神津島に行つたときは悪天候だったけれど、今回は快晴だった。海もきれいだった。夜のBBQでの釣った魚は美味しかった。釣りプロは本当に楽しかった。また行きたいです。

高校一年生男児



燃えろ燃えろ。プロ

燃えろ燃えろプログラムでは、伊豆モビリティパークで焚き火を行いました！プログラムには、高校生と小学生が参加し園長先生が点火をしてくださいました。

子どもたちは火を眺めているぶり過ぎたり、時折火が消えないよう団扇を仰いでくれたり薪を追加してくれました。またモビリティパークは自然豊かで散歩にうってつけの場所で、子どもたちも楽しそうに散歩に行くこともありました。活動の中では、各ホームの子ども達・職員が書いてくださった短冊を「叶いますように」とお願いをしながら焚き火に入れました。本当に薪を全部使いきることができると、火を絶やさない事ができるかが不安でしたが、子どもたちの協力があり、無事薪を使い切り三十時間火を絶やさないことができました。最終日は大室山に行きましたが、あいにくの天気でした。しかしその後、小田原城散策では天気も回復して、小田原城の展望台で子どもたちも嬉しそうに写真を撮っていました！子どもたちからも「楽しかった」「参加

してよかった」といった嬉しい言葉もあり、子ども達や大人にとっても思い出に残る体験ができました。

児童指導員 窪田絢子

夏行事は、火を見ているのが大変でした。

楽しかったことは、布団で寝ることやキャンプ場を探検することが楽しかったです。行きも帰りも乗り物に乗っている時間が長くて疲れてしまったこともまあまあいい思い出になったかもしれません。小田原城も凄く高くて驚きました。色々あった燃えろ燃えろプログラムでした。次はどんな夏行事に行こうかな。

小学六年生男児



カッププロ

晴天に恵まれた七月二十八日、年中児と年長児と小学一年生のふたば探検隊は、あの伝説のカップと友達になる為に、電車や新幹線を乗り継ぎ六時間、岩手県遠野市へ向かいました。遠野市内はいたるところにカップのモチーフや看板が。子どもたちは「あ！カップだ！」「絶対いるよ！」と大興奮。カップ釣りができるといわれる「カップ淵」へ向かい、竹の釣り竿に朝の釣糸。その先にはカップの大好物のキュウリを付けていざ！川も深く底が見えない中、一人の子の釣り竿がしなる。竿を上げると、なんとキュウリが半分になつてゐるではありませんか。子どもたちのテンションはここ一番に上がり、次々にかじられるキュウリ。それでもカップの姿はどこにも見当たりません。この日は諦めて宿へ。

次の日はカップの気持ちを理解し、仲間なんだと伝える為に皆でカップに変装して川遊び。沢山遊んだ後は、土手でスイカをかじって水分補給です。最終日に向けて準備万端。

いよいよ最終決戦。再び

カップ淵へ向かい、あたりを散策。すると子どもが「ねえ、何かいる。真つ赤なの、何かいる。」と怖がりながらみんなに知らせる。そうなんです。遠野のカップは真つ赤な体なんです。全員で走って追いかけてますが驚いて逃げてしまつたようで。近くにはひょうたんと食べかけのキュウリが。それでも子どもたちは未確認生物への恐怖心が勝り、大号泣に次ぐ大号泣。全員が大人に抱っこされ号泣しながら岩手県を後にしました。帰りの新幹線では「みんなが騒ぐから怖くなつちゃったのかな。」「また今度は会えるかな」と前向きに。

子どもが見たのはカップだったのか。今年一番の思い出になったのは間違いないのではないのでしょうか。

児童指導員 山田晃平



行事報告 二葉まつり

これまで二葉学園では地域の方と共に『地域B B Q』を長年続けてきました。一昨年から新型コロナウイルスの流行により、飲食を伴わない『ハロウィンキャンドルナイト』を開催しました。今年は幅広い世代でも楽しめる『まつり』という形で地域交流行事を行いました。

当日は百名の地域の方の参加があり、二葉学園の児童、地域の子育て家庭、近隣の学童のお子さん、自治会の方、里親家庭などたくさんの方に楽しんでいただきました。

まつりの目玉でもあるゲームコーナーは『子どもから大人まで楽しめるように』と職員が試行錯誤し、準備してきました。その努力が実り、子どもと大人の笑顔と歓声がゲームコーナーの至る所で溢れていました。



抽選会は今年も地域のお店にご協力頂き、素敵な賞品を揃える事が出来たおかげで、参加者の方から大変喜ばれました。

そして今回は二葉学園や里親制度について知って頂く機会を作りたいと思い、学園の概要、地域の取り組み、里親支援やフォスタリング機関についての展示を行いました。「近所に住んでるけど、どんな所かずっと分からなくて」と話す参加者の方もおり、知って頂く良い機会となりました。また祭り会場には里親制度PRキャラクターのさとペンも登場し、さとペンに会える事を楽しみに二葉まつりに参加してくれた地域のお子さんもいる程、子ども達に大人気でした。

二葉まつりで地域の方と二葉学園の児童・職員が交流する姿を見て、とても温かい雰囲気を感じました。人と関わる機会が減少している今、このような機会を大切にし、二葉学園が地域交流の発信地になって行けたらと思います。

地域支援担当 日下部樹



行事報告 強歩

二葉学園で、毎年行われている「強歩」。今年は、秋の綺麗な紅葉を目指し、立川にある昭和記念公園に総勢約二十名で向かいました。全部で約三十キロの道のりです。全員で同じ目標に向かって、歩いて、歩いて、時々休んで、また歩く。簡単そうにみえますか？ただ、歩くだけでつまらなそうにみえますか？その答えは人それぞれだと思いますが、少なくとも参加したメンバーは強歩の過酷さ、楽しさ、達成感を感じる事ができたと思います。

当日は、約十二時間かけた行程でした。外はまだ薄暗い、風が冷たい六時半に本園を出発。今年は初めて参加する子どもと大人が多かったそうです。一日で三十キロも歩くなんて、今までの人生にあつたでしょうか。ハラハラどきどき、挑戦の一日がはじまります。学校の話や怖い話、都市伝説、色々な話をして盛り上がりつつ、歩く事で景色が変わる様子を楽しみました。途中、登りの坂道が続き、

心が折れる時もありましたが、全員が疲れている中、お互いに応援し合うことで乗り越える事が出来ました。本園を出発してから6時間、やっとの思いで昭和記念公園に到着！青く透き通った空にオレンジ、黄色、赤色の葉っぱが風に揺られていて、地面には綺麗な絨毯が広がっていました。

さて、紅葉を楽しみながら昼食を食べ終え、残りの目標は二葉学園を目指して歩くこと。しかし、翌日のことを考え、やむを得ず電車に乗る事が夕方に決定されます。その時、「また来年も強歩に参加したい！」と悔しそうに言った子どもたちの言葉が、今でも記憶にあります。強歩に参加した事で、挑戦する気持ちが出て来たのだと思います。

児童指導員 志村 優月



寄付物品報告

こちらはほんの一部になりますが、寄付いただいた物品の写真になります。この他にも一年間を通してたくさんの方からの様々な寄付が二葉学園には寄せられます。この場をお借りしてお礼申し上げます。誠にありがとうございます。



二葉学園委員会活動報告 ～地域里親支援委員会～

二葉学園では、これからの地域支援と里親支援について月に1回程度【地域里親支援委員会】内で話し合いを実施しています。この委員会内では学園のこれからの「地域支援」「里親支援」を検討しています。今回はその「地域支援」について報告になります。

一重に地域支援や里親支援といってもなかなか委員会メンバーでもイメージを作り上げにくく、話し合いを繰り返しながら共有を図っている段階です。「学園ができる地域支援とは」について毎回知恵を出し合っている最中ですが、なかなかそう簡単には思い浮かばないところです。そこから抜け出すため、委員会メンバーで東京都内の児童養護施設で魅力的な地域支援事業を行っている施設へいくつか見学に行くことにしました。

見学先の方たちからは、大変貴重なお話を頂き学ばせてもらいました。ショートステイ事業や居場所事業以外にも、学習会の開催や場所の貸出など様々な取り組みや活動を展開しているお話を聞くことができました。その基盤になっているのは、地域やボランティアの活動団体と繋がりを持ち、積極的な連携でした。煮詰まるメンバーにとって良き刺激になり、今後の委員会の活気に繋がる見学になりました。我々、今後も地域里親支援について検討を重ねていきますので、引き続き

専門職主任 星直倫

二葉学園では、養護の目的を達成するためにご援助を頂いて、より子どもたちの成長をはかるための賛助会を構成して、養護の状況をご報告しながら仕事を進めております。

皆様のご協力とご紹介をお願いいたします。

年会費 一口 1000円

お申し込み先

東京都調布市上石原2-17-7

児童養護施設 二葉学園

TEL 042-482-2578

FAX 042-480-5200

郵便振替 00130-4-47665

毎年報告しています決
済報告に関しましては、
社会福祉法人 二葉
保育園のホームページ
をご覧ください。
<http://www.futabayuka.or.jp/>

賛助会員・御支援者

御芳名

(敬称略)

秋葉義孝 秋葉宏子 辻久恵 秋輪和幸 石森康雄 坂倉綾子 野地隆夫 新井美津子 岡本光一 岡本文子
ばていすりー・ど・あん 仙川教会子ども教会 日本鏡餅組合 子ども地球基金 (財)登戸学寮寮生一同
志賀勝子 網代正孝 斉藤友子 多胡彬 大橋章人 大橋能里子 桐谷重毅 橋本知 福島穆
高山直人 ちようふ子どもネット青少年ステーション 加幸男 大河原幸子 関沼幸通 (有)柴田商店 柴田明
ヤング理髪店 高橋清一 永幡紀明 上石原二丁目自治会さくら会 徳井美千代 宮田康成
調布駅前パソコン教室 朝日管財(株) 多田京子 東京都蒔菫共同組合 東中野教会 牧操子
高橋清一 細川知子 小松幾世 有賀芳子 大新電気工業(株) 武藤修明 原田利裕 堀本縣治 田辺一男
加藤実三 中山正雄 藤澤晴子 (株)ドリムホーム BIRサーティーワンアイス(株) 牧野信也 成田和子
千賀ひろみ 舟久保由紀子 食肉生活衛生同業組合 坂本悠紀子 公益財団法人毎日新聞東京社会事業団 阿部陽子
折茂伸満 フードバンク調布 大河内義貴 渡邊幸一郎 萩生田敏一 (有)ダスカジャパンクアウテモック 齋藤隆夫
染地地域福祉センター 高浦勝寿 作左部麻希 上野まり子 西光庵 清永道也 清永春美
府中市主任児童委員会一同 (株)ブレナス (社)東京馬主協会 (有)布田屋 掛川亜季 調布市社会福祉協議会 園武友
公益財団法人資生堂社会福祉事業財団 鈴木洋 藤田奈巳 那須史子 宮川千春 関根裕美 柳原園子 田中秋男
長澤康浩 福田裕代 野田英明 徳富善子 特定非営利活動法人日本チャリティ活動支援協会 池田守彦
(株)NUK建設計画事務所 一般社団法人東京文具工業連盟 調布市遊技場組合 大島紀子 吉澤貞雄 吉澤治代
アンダーツリー東京キコナーナ府中店 フィリップモリスジャパン(株) セカンドハーベスト・ジャパン 池田守彦
中嶋勝夫 松浦幸子 NPO法人ちようふこどもネット 宇山みえ子 コストコホールセールジャパン多摩境倉庫店
(株)京王閣 東京調布ライオンズクラブ 菊池邦夫 渡辺チイ 清水裕子 株式会社ガイア 武田康男
角瀬敬子 島田圭子 小林明信 調布WAT 渡辺喜信 渡辺千重子 滝沢友紀 村岡弘 村岡えり子 村岡海斗
府中子ども家庭支援センター たっち 一般社団法人東京都信用組合協会 調布・狛江地区更生保護女性会
焼鳥とりふく糸川 (株)オリエントコーポレーション ワールドメイト 小林肇 関口隆雄 白百合女子大学
公益財団法人毎日新聞東京社会事業団 中央共同募金会・アサヒ飲料(株) 日本再生(株)代表取締役鷺見健司 西村文子
健全育成第三地区委員会有志一同 小倉勇 (株)日本M&Aセンター代表取締役社長三宅卓 柳俊一郎
寺澤玲子 廣瀬剛 河内進一郎 榎本春久 フードフォーキッズプロジェクト 全国シヤンメリー協同組合 森本裕美
塩野梨沙 株式会社日本出版社販売 松浦幸子 富士天然氷蔵元・不二 高田健吾 佐藤昭 調布市フードドライブ
大塚商会(株) アメリカンスクールインジャパン NPO法人フuranettoカナル (株)サントリーホールディングス
大島秀治 ボランティアグループ・すいとびい 奥野宣子 中村敏枝 向當稔 向當君枝 KKアードブレイク
高橋一弘 菊池邦夫 西村文子 青松佐枝 一般財団法人日本児童養護施設財団 ジエイ・ワーク(株)
調布バルコフードドライブ 鈴木博人 荒井富子 高木久美 大木尚美 匿名の方

※皆様からのご支援ご援助、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和四年十二月